

百合便り

校長だより11月号



(やまゆり植栽・清掃風景)

大きな行事も終わり、後期中間試験を終え、生徒たちは本分である学業一色の時期に入りました。特に3年生は年明けの入試を控え、各自のペースでの学習体制を作り上げているようです。

受験は子どもを大きく成長させます。自身の子育てにおいてもそう感じました。志望校選択の責任と高みへの挑戦を自分の評価として合否で受け入れることが、自己責任と向き合う大きな一歩になるのだと思います。親としては子どもが志望校を決めるまでが協働、決めた後はただただ支援と応援に回るしかありません。そして親自身も結果を願うのではなく、現実として受け止める覚悟と楽しむくらいの余裕がないと安心した子どもの学習環境を創り出せないものかもしれません。皆さんはいかがでしょう。人生初の大きな試練に向かっていくお子様たちをどうか暖かく包んであげてください。

さて、11月18日（土）にPTAの学校清掃とやまゆり植栽が実施されました。裏門から百合高裏バス停まで、ポプラの落ち葉がたまり、近隣からもご要望をいただいていたが、とてもきれいになりました。参加くださった保護者の方々、ボランティア生徒に生徒会役員、ハンドボール部員の皆さん本当にありがとうございました。4年前から部活動校外清掃としても落ち葉ひろいに取り組んでいますが、追いつく量ではなく、今年はPTA役員会で協力することとなりました。大量の落ち葉が掻き出され、見る見るうちにごみ袋に入れられ、きれいになっていく様は圧巻でした。30以上のごみ袋になったそうです。がしかし翌月曜にはまた、落ち葉がたまっていて、ここから2週間は部活動で落ち葉掃除にバトンタッチです。

清掃開始時に役員の方から「表だけきれいではだめなのだ、裏まできれいに」という話があり、全員納得してしまいました。

もちろん中身もですが、「裏まできれいに」は自身の教訓としても、お言葉をいただきました。